

白い紙

車窓の外で吹き荒れる風
すべてを掃き去ってくれはしないか

真白い紙に記すことへの怖れ
何を想う

風よりも確固たる景色
僕は想う

列車の揺れは
かつてほど大きくはなく

美しく彩色されたものは要らない
用意されたものは

ガラス窓に触れた空気は冷やされ
僕へ還る

還る
還れ

細長い部屋を見渡せば
空席が並び、続いている

ああ
この部屋ごと運ばれることのよろこび

膝の上の真白い紙に目を落とし
僕は怖れる

僕は想う
想いつづける

同時に
よろこびにふるえ
おののく

ああ、風よ
すべてを掃き去ってくれはしないか

(2005.12.19)